

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中1	普通	技術家庭科	技術科	1
教科書			補助教材		
教育図書			情報教材 タイプクイック 木材加工実習 手作り箸 砂時計		

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	〔技術〕 「森林破壊を防ぐにはどうしたらよいか」レポート提出 技術と私たちの生活 手作り箸の制作	〔技術〕 レポート課題の提出 構想のたてかたと表し方 立体の構想図 キャビネット図と等角図 手作り箸の制作	〔技術〕 授業再開時にレポート提出 キャビネット図と等角図の理解 木材の性質と特徴 木材の加工について
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用	〔情報〕 タイピング練習	〔情報〕 タイピングに慣れさせる ローマ字入力
2学期	前半	〔情報〕 コンピュータとその利用	〔情報〕 入力練習とインターネットを利用した検索	〔情報〕 インターネットを利用することの光と影
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用	〔情報〕 ワードを利用して、体裁を整える実習	〔情報〕 ローマ字入力を少しでも早くする
3学期		〔木材加工〕 砂時計の制作 〔情報〕 コンピュータの利用	〔木材加工〕 砂時計の制作 〔情報〕 入力練習とインターネット検索 ソフトの利用(表計算)	〔木材加工〕 電動工具を使うため、安全を確保することを第一に考える。

評価方法	【技術】 第1学期 キャビネット図・等角図の課題テスト はしの評価 第2学期 課題テスト 木材加工品（砂時計）の確認 第3学期 第三角法の課題テスト 木工作品（砂時計）の評価 【コンピュータ】 第1学期 コンピュータの構成 タイピングの評価 第2学期 ワードソフトを利用し、課題レポートの評価 第3学期 表計算ソフトを利用した課題の評価
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピュータの取り扱い 木材加工での実習でけがをさせない。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中1	普通	家庭		1
教科書			補助教材		
教育図書			マイクロファイバークリーナー		

年間指導目標
家族、家庭に興味、関心を持ち、知識を定着させる。 被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	家族と家庭生活	家族の形 家庭生活 家族とのかかわり 家族のかかわりとコミュニケーション 家庭と地域のつながり	家庭の中での立場、役割を理解させ、将来に向けて自立を促す
	後半	被服実習	マイクロファイバークリーナーの製作	手縫いの基礎的な技術の定着けがなどがないよう、安全に気をつける
2学期	前半	被服実習	マイクロファイバークリーナーの製作	文化祭に展示できるよう最後の仕上げを行う
	後半	幼児の生活と家族	幼児の心身の発達 幼児の生活の特徴 幼児の生活習慣 幼児の発達と遊び	幼児の生活や特徴について理解を深める。
3学期		わたしたちの住生活	住まいのはたらき 家族の生活と住まい 安全な住まい方の工夫 健康を守る住まい方の工夫	生活の基盤となる住居についての理解を深める

評価方法	1学期 ノート、プリントなどの提出物 作品（マイクロファイバークリーナー）の評価 2学期 ノート、プリントなどの提出物 作品（マイクロファイバークリーナー）の評価 3学期 ノート、プリントなどの提出物
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中2	普通	技術家庭科	技術科	1
教科書		補助教材			
教育図書		情報教材 タイプクイック 電気実習 テーブルタップ センサーライト			

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	〔技術〕 電気エネルギーの利用	〔技術〕 身の回りのエネルギー エネルギー変換 発電所の仕組みと特徴 電気エネルギーの変換	〔技術〕 発電所の仕組みとエネルギー効率などについて理解させる。
	後半	〔情報〕 コンピュータの利用1	〔情報〕 プログラミングの基礎	〔情報〕 プログラミングについて理解させる
2学期	前半	〔電気〕 テーブルタップの製作 〔技術〕 エネルギーの利用	〔電気実習〕 テーブルタップの製作 〔技術〕 回路図や図記号を覚える オームの法則、電力の計算	〔電気実習〕 ワイヤストリッパー、圧着ペンチの使い方 〔技術〕 回路図が書けるようになる 計算問題ができるようになる
	後半	〔電気〕 LEDスタンドの製作	〔電気〕 はんだこての使い方	〔電気〕 はんだこての使い方 やけどに注意する。
3学期		〔電気〕 LEDスタンドの製作 〔情報〕 コンピュータの利用2	〔電気〕 はんだこての使い方 〔情報〕 エクセルで時間割の作る	〔電気〕 LEDスタンドを完成させる。 〔情報〕 ワープロソフト以外でも時間割を作ることができることを理解する

評価方法	第1学期 プログラミング エネルギー変換についての確認テスト 第2学期 テーブルタップの評価 実習の作品 作業状況 第3学期 作品提出〔LEDスタンド〕
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピュータの取り扱い はんだこての取り扱い やけどに注意する
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中2	普通	家庭		1
教科書			補助教材		
教育図書			手軽でばっちりお出かけトート 家庭科ワークノート 食生活		

年間指導目標
食生活に興味、関心を持ち、知識を定着させる。 被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	健康と食生活	食事の意味 よい食習慣とよくない食習慣 栄養素の種類とはたらき	食生活に興味を持ち、理解を深める。
	後半	健康と食生活	中学生に必要な栄養 食品に含まれる栄養素	中学生にとって必要な栄養を理解し、日常生活に反映させることができるよう促す。
2学期	前半	献立作成と食品の選択	献立作成 食品の選択と購入	献立作成や、食品購入など、日常的に必要な内容を理解し、活用できるようにする。
	後半	衣生活 被服実習	衣服の着用 衣服の入手 衣服の手入れ ミシンの使い方	衣服についての理解を深める。 実習にスムーズに入れるようにミシンの使い方を徹底させる。
3学期		被服実習	トートバッグの製作	ミシンを使ってトートバッグを完成させる。

評価方法	1学期 ワークノート、プリントなどの提出物 2学期 ワークノート、プリントなどの提出物 3学期 作品（トートバッグ）の評価
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中3	普通	技術家庭科	技術科	0.5
教科書		補助教材			
教育図書		情報教材 タイプクイック プリントマグカップ ミニトマト			

年間指導目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	栽培について 植物の発芽・成長 マイクロトマトの育て方	マイクロトマトを育てるため、 植物の育ち方について学習する	発芽率を上げることが目標とし、 学習する
	後半	〔情報〕 マイクロトマトの生育記録修学 旅行の壁新聞	〔技術・情報〕 マイクロトマトの教材を持ち帰り 自宅で育てる 生育の記録写真をメールで提出	〔技術・情報〕 壁新聞で情報発信 観察と記録の習慣
2学期	前半	〔情報〕 プレゼンテーション 〔技術〕 マイクロトマト栽培	〔情報〕 情報の発信について班のメンバー で役割分担して発表する 〔技術・情報〕 生育の記録写真をメールで提出	〔情報〕 聞き手にわかりやすく情報を発信 するにはどうするのかを工夫する 〔技術・情報〕 観察と記録の習慣
	後半	〔情報〕 プレゼンテーション	〔情報〕 情報の発信について班のメンバー で役割分担して発表する	〔情報〕 聞き手にわかりやすく情報を発信 するにはどうするのかを工夫する
3学期		〔情報〕 コンピュータの利用3	〔情報〕 ペイントソフトを使って、画像 を編集する	〔情報〕 卒業記念の作品としてマグカッ プを作る 著作権に注意する

評価方法	第1学期 マイクロトマトの栽培記録 レポート 第2学期 プレゼンテーションの評価 第3学期 画像の作品
学習方法	教科書と授業、実習により理解を深める
注意事項	コンピューターームの使い方 枝豆の栽培は、家庭で迷惑にならないようにする 著作権に注意する
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	中3	普通	家庭		1
教科書			補助教材		
教育図書			お楽しみイベントはっぴ		

年間指導目標

住生活、消費生活、環境問題に関して興味、関心を持ち、知識を定着させる。
被服実習を通して、基礎的な技術を身につける。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	消費生活	私たちの消費生活	身近な消費生活について関心を持ち、理解を深める
	後半	被服実習	被服実習 はっぴ	家庭科室の使用法、ミシンの使い方を確認。 体育祭に向けてはっぴの作製を行う
2学期	前半	被服実習	被服実習 はっぴ	引き続きはっぴの作製を行う
	後半	消費生活	いろいろな買い物方法 消費者トラブルの解決 買い物の社会的な意味	日常生活に直結する買い物方法、消費者トラブルについて知識を持ち、理解する
3学期		家庭生活と環境 中学校での家庭分野のまとめ	消費生活と環境とのつながり	環境問題への関心、問題意識を持ち、日常生活で自らできることを考える 3年間の学習を振り返り、今後の家庭生活上で実践できるようにしていく

評価方法	1学期 ノート、プリント、課題などの提出物、作品（はっぴ）の評価 2学期 作品（はっぴ）の評価 3学期 ノート、プリント、課題などの提出物
学習方法	教科書を中心に授業を行い、必要に応じてプリントで補足説明を行いながら理解を深める。 実習は、作業を重ねることで技術を身につける。
注意事項	被服実習時の道具の取り扱い けがなどなく、安全に行えるよう注意する。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書の精読を通じて知識の定着をはかる。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校2年	普通	家庭	家庭基礎	2
教科書		補助教材			
東京書籍「家庭基礎」 自立・共生・創造		東京書籍「スーパーライブビュー」家庭科資料＋食品成分表 東京書籍「家庭基礎 学習ノート」 イージーパンツ			

年間指導目標

生活に必要な衣食住の基本的な知識、技術を習得し、実社会に適應する力も持ち、より健康で豊かな生活が出来るようにすることを目標とする。

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	家族・社会の共生	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共につくる	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の発達課題を学び、自分の生活や将来について考える。 家族や家庭、それらに関する法律を理解する。現代の家族を取り巻く環境などを考える。 子どもの成長・発達の特徴を知る。 乳幼児の生活習慣の重要性を知り、家族が果たす役割を理解する。 高齢者の心身の特徴を知り、高齢期の生活を充実させるための方策を考える。
	後半	被服製作	1 ペンケース製作 (ミシンを使用) 2 基礎縫い(手縫い)	<ul style="list-style-type: none"> ミシンの使い方を理解し、縫製作業が出来るようにする。 製作に必要な用具を準備し、安全な使い方が出来るようにする。 手入れや補修が出来るようにする。
2学期	前半	生活の自立	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活の自立のために、衣服素材を理解する。 現在の衣生活を考え、既製服の購入、洗濯、保管の仕方を理解する。
	後半	生活の自立	第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康であるためにどのような栄養素をどのくらい食べれば良いか、また栄養素の種類と働きを理解する。 食品の流通経路や安全な食品の鑑別や購入について理解する。
3学期		生活の自立	第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 様々な住居を知り、安全で快適な住生活を考える。 情報化社会における消費者の役割や問題を考える。 消費行動が環境に及ぼす影響について考える。

評価方法	1 定期試験 2 授業態度 3 実習態度(作品の評価を含む) 4 提出物(家庭基礎学習ノート、プリント、課題を含む) 5 小テスト
学習方法	教科書、学習ノート、資料集で理解を深める。
注意事項	被服実習の作品を家庭に持ち帰り課題をすることを禁じる。(授業内で作品を完成すること)万が一持ち帰った場合は被服実習の点数は0点とする。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	教科書及び副教材の精読を通じて、知識の定着を図る。

年度	学年	コース	教科	科目	単位数
令和5年度	高校3年		情報	社会と情報	2
教科書		補助教材			
東京書籍 社会と情報		社会と情報 学習ノート(東京書籍) パーフェクトガイド情報(実教出版) Typequick Professionalクラウド版(日本データパシフィック)			

年間指導目標

将来にわたって情報機器を効果的に活用するために必要な知識を習得する。
 情報化の利点と問題点を理解し、どのように活用すべきか自分自身で考える力を身につける
 情報機器を活用した情報発信の仕方を体験し、今後の活動に生かす

学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1学期	前半	座学（教室で実施） 第1章 情報を活用する 実習（コンピュータ室で実施） オリエンテーション タイピング練習(通年で実施) アンケート調査の実施と集計	座学 1節 私たちを取り巻く情報 1 情報とメディア 2節 アナログからデジタルへ 1 情報のデジタル表現 2 デジタルデータの特徴 実習 コンピュータ室のルール ログインとログアウト TYPEQUICKにログイン アンケート調査の実施に向けて 質的データと量的データ アンケートの作成(ロイロノート)	座学 情報とは何を意味するか考え、さまざまなメディアの意味と特徴を学ぶ。 表現方法が異なるアナログデータがどのように共通のデジタルデータになるかを理解する デジタル化はプラス面もあればマイナス面もあることを理解する。 実習 コンピュータ室の使い方について知る。 ホームポジションの位置など、タッチタイピングを習得する。 調査内容に対する客観的なデータを集められるようなアンケートを、ロイロノートを使って作成する。
	後半	座学 第1章 情報を活用する 実習 アンケート調査の実施と集計 プレゼンテーションの実施	座学 1節 私たちを取り巻く情報 2 信頼できる情報と信頼できない情報 3 情報の見極め 実習 アンケート調査の実施 Excelを使った集計・グラフ化 プレゼンテーションの実施	座学 信頼できる情報と信頼できない情報の特徴を理解し、自分で情報の見極めができるようにする。 実習 回答結果を正しく集計し適したグラフでグラフ化できるようにする。 数学I「データの分析」の学習と連携させる。 アンケートの結果をスライドにまとめ、グループ単位で発表する。
2学期	前半	座学 第2章 ネットワークを探索する 第3章 情報社会の課題を見つける 実習 プログラミング的思考の体験	座学 1節 インターネットの利用 1 インターネットの仕組み 2 WWWと電子メール 2節 ネットワークとコミュニケーション 3 ネットコミュニケーションの特徴 1節 情報化の影響と課題 2 情報社会の影響 3 情報セキュリティ 実習 アルゴリズムを使ったプログラミング的思考の体験 Pythonを使ったプログラミング的思考の体験	座学 インターネットの接続の仕組みを理解し、インターネットを活用した、様々なサービスの仕組みを理解する。 コミュニケーションの特徴を理解し、ネットコミュニケーションでの注意点を学ぶ 情報社会の弊害を理解し、各自がどのように気をつけるべきかを考えられるようにする。 実習 プログラミングの順次処理 分岐処理・反復処理の考え方を理解する。
	後半	座学 第3章 情報社会の課題を見つける 実習 画像処理の仕組み	座学 1節 情報化の影響と課題 4 情報モラル 2節 法律と個人の責任 1 情報社会と著作権 2 個人情報の保護 実習 07クイズ画像を作ろう 08データ量を体験してみよう 11小さくしよう	座学 「情報モラル」の原則を捉えた上で、実際に生じている問題とその対策について考える。 作成者と利用者の両方の立場から著作権について考えられるようにする。 個人情報の重要性と個人情報流出の危険性について理解する。

				実習 画像編集ソフトを使った画像加工を体験し、解像度の重要性を理解する。
--	--	--	--	--

評価方法	講義：50%（試験、提出物等） 実習：50%（課題レポート、作品、実技試験等） ノート提出、授業態度等の平常点算入を含める ※1学期中間評価に限り試験100%（実習の内容を試験範囲に含む）で評価する
学習方法	授業の前に教科書を一読し、キーワードを確認した上で内容を大まかに把握しておく（教科書の内容をただ暗記するのではなく、自分やその周りの実生活に置き換えて考えると良い）。学習ノートのうち授業で扱わなかった部分を復習として自宅で完成させる。
注意事項	教室で授業を行う日とコンピュータ室で実習を行う日に分かれているが、急遽変更する場合もあるのでどちらの授業にも対応できるように準備しておくこと。 タブレットも使用する機会が多いので、常に充電して持参すること（指示があるまでは出さない）。 実習の際、コンピュータ室の保存領域にファイルの容量が大きいものを保存しないこと。
インフルエンザ等で臨時休校になった場合の課題	当該範囲について教科書を読み、学習ノートを記入する。 NHK Eテレ高校講座「社会と情報」の関連する回をインターネットまたはテレビで視聴し、わかったことや感想を記入する。 インターネットに接続できる環境があれば、タイピング練習をする（ログインの仕方は配布した紙を参照すること。タブレットでも練習できるが外付けのキーボードを使うか、PCを推奨）。